令和３年度

# 学校関係者評価報告書

令和４年４月

独立行政法人国立病院機構

都城医療センター附属看護学校

平成 19 年 10 月学校教育法施行規則改正により「自己評価」の義務化と「学校関係者評価」の努力義務化が規定された。

令和元年度より自己評価結果の客観性と透明性を高め、本校と密接に関係する方々との理解促進や協力連携による学校運営の改善を図ることを目的に学校関係者評価を実施しており、令和 3 年度も実施したので報告する。

1.学校関係者評価委員会

1)学校関係者評価委員

小川淳子　（学校法人日南学園日南看護専門学校校長）
中山秋子　（一般社団法人藤元メディカルシステム藤元病院看護部長）
山崎幸江　（同窓会白埴会副会長）
平井良子　（同窓会白埴会副会長）
工藤智子　（在校生保護者）

2)事務局

吉住秀之　（都城医療センター附属看護学校学校長）
山中真弓　（都城医療センター附属看護学校教育主事）
草原麻紀　（都城医療センター附属看護学校実習調整教員）
小倉裕香　（都城医療センター附属看護学校学科調整教員）

2.評価対象期間

自：令和 3 年 4 月 1 日
至：令和 4 年 3 月 31 日

3.実施方法及び公表

学校で取り組んだ自己評価を「自己評価結果」として冊子にまとめ、学校関係者評価委員に事務局より配布・説明を行った。学校関係者評価委員会にて、評価基準に基づき評価項目ごとに評価を実施した。その結果を報告書としてまとめ、学校ホームページにて公表する。

4.評価項目及び評価基準

1)評価項目

(1)重点目標
(2)教育理念
(3)学校運営
(4)教育活動
(5)学修成果

(6)学生支援
(7)教育環境
(8)生徒の受入れ募集
(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献

2)評価基準

・適切(実施)
・ほぼ適切(概ね実施)
・普通(問題や課題があるが一通り実施)
・やや不適切(少し実施)
・不適切(実施していない)

5.評価結果

項目１　重点目標　　評価　適切

・昨年度の評価から、目標設定され取り組まれていることが変化につながっていると考える。
・各学年のレディネスに応じて、明確な教育計画を立案し実践されている。出席カードのさらなる工夫も伺え、学生の反応が見える。教育方法の研究など、教育体制の創意工夫を感じる。
・コロナ禍の中教育の継続が難しい状況で ICT の活用で支援できていたと思う。ただし、教職員の対応で学生に不満があったようなので今後の改善が必要である。
・教員の超過勤務については、今後も業務調整によって改善する必要がある。

項目２　教育理念　　評価　適切

・教育理念、教育目的、教育目標に基づいて、学年別到達目標、教育内容、教科外活動が実施され、工夫されていると感じる。
・教育目標を到達するには、臨床実習が必要不可欠であり、今年度は、実習での体験が不十分であったと思うが、学内演習や臨床との連携により教育目標の到達への工夫が感じられる。
・個人の能力向上を図ると共にクラス運営等でチームの一員としての育成を行われていた。

項目３　学校運営　　評価　適切

・組織や運営委員を中心とした学校運営の在り方が明確に整理されている。計画的に会議、委員会での検討、決定されており、有効に機能していると思う。
・コロナ禍の影響を受けながらも、積極的に環境調整や運営方法の変更を行い、客観的な評価を取り入れるなど努力が伺える。
・会議内容は事前に配信し、決定事項がスムーズに行えるように工夫されている。インシデント、医療事故は事故報告に重点をおいて運営がなされている。

## 項目４　教育活動　　評価　適切

・授業評価は高く、学生が満足した授業が受けられていると思う。教育授業の評価に、臨床の視点からの評価を得るなどの取組は評価できる。

・複数の教員で学生、個々のニーズに応じた指導やコロナ禍での臨地実習が少ない中、短時間でも学生の理解が進むように工夫がなされていたと思う。

・学年での取組、学生個人への対応などきめ細かい教育がなされていると感じる。シミュレーション教育の取組も、スピーディに発展されていて、教育に動きを感じる。実施した中から課題が明確化されており、次年度に活かされる評価もされていて、すばらしいと思う。

・コロナ禍の中で、安全対策をとりながら効果的な技術演習、臨地実習の計画変更などを行うことによって、臨地実習を実施できている。学校、実習施設との連携があって実現できていることなので羨ましい限りです。

・教育内容の変更（経過期別）にともないシミュレーターを使用したり昨年の課題（対象理解）を踏まえて指導強化できていた。

・実習を補うためにシミュレーション教育の活用は今後さらに必要となるので継続してほしい。

・書面による講師会議が行われているが、意見がいただけなかったという点においては方法の検討が必要である。

## 項目５　学修成果　　評価　適切

・就職率の向上は充分に図られている。特に看護部から２年生に進路説明をすることで進路の決定につながっている。

・宮崎県内の就職率を上昇させるために、卒業生の協力を得て宮崎県や都城市の魅力について情報発信を行うことが課題である。

・卒業状況では、１名の退学者で収まっていることは評価できる。

・教育方法の工夫の効果があったと感じる。国試に向けての支援も良かった。各学年の目標が明確でよかったと思う。

## 項目６　学生支援　　評価　適切

・自治会活動のサポートや学年単位での課題を明確にしたサポート体制は、努力していると評価できる。

・コロナ禍の中でも可能な範囲での活動を実施されている。ストレスが多い中で教科外活動の効果は大きい。

・保護者への協力を得るため成績表送付は、進路・就職の支援につながっている。

・カウンセリングの利用者が少ないので、利用しやすいカウンセリング環境の改善が必要である。また、カウンセリングが必要な状況にある学生にはカウンセリング参加の促しを今後も継続していく。

## 項目７　教育環境　　評価　適切

・学内教育が多かったと思いますがハイブリッドシミュレーターや SP での演習、研究発表などで充実し

ていたと感じる。臨床の指導者との連携も取れている。

・学内に実習施設があることは学生にとってすぐに実習につなげられるメリットである。リモート授業はコロナ禍で余儀なくされたこともあるが終息後もリモート授業を積極的に取り入れていくための環境整備は整っている。

・防災訓練を実施されているが、施設内の点検、備蓄など防災に対する備えについては準備しておらず課題である。

・まだまだ図書の充実を図ってもらえればと思う。

項目８　生徒の受入れ募集　　評価　ほぼ適切

・オープンキャンパスやWEB配信などを通して、対象者の関心を引き出せたことは、効果的な募集活動であったと評価できる。

・定員確保できているが、受験者数が減少しており、昨年度と比較すると倍率が低下している。学生募集において、HPの充実、中学生からの進路選択に関するPR等が課題である。

項目９　法令等の遵守　　評価　適切

・法令に基づき調査、報告、申請が計画的に行われている。

・看護師養成所の学則（教育課程）変更についても承認が得られている。

項目10　社会貢献・地域貢献　　評価　普通

・コロナ禍のなかでも、できる活動を実施されている。また、看護教育実習も受け入れたり、県内外の実習指導者講習会の講義を実施されており、県内の看護教育の発展に貢献されている。

・出前講座を通して、これからを担う中学生に「高齢者の特徴を理解」できるような講義だけでなく、体験する方法を取り入れたことは効果的だったと思う。

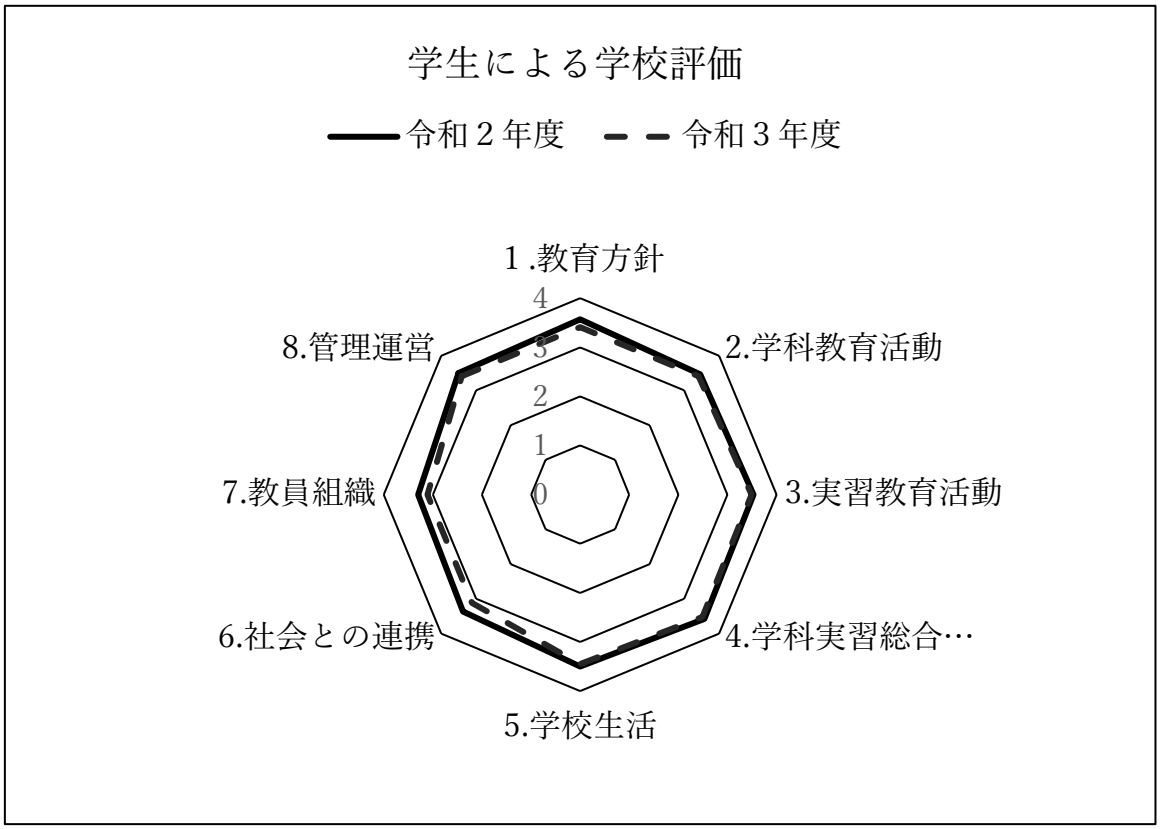
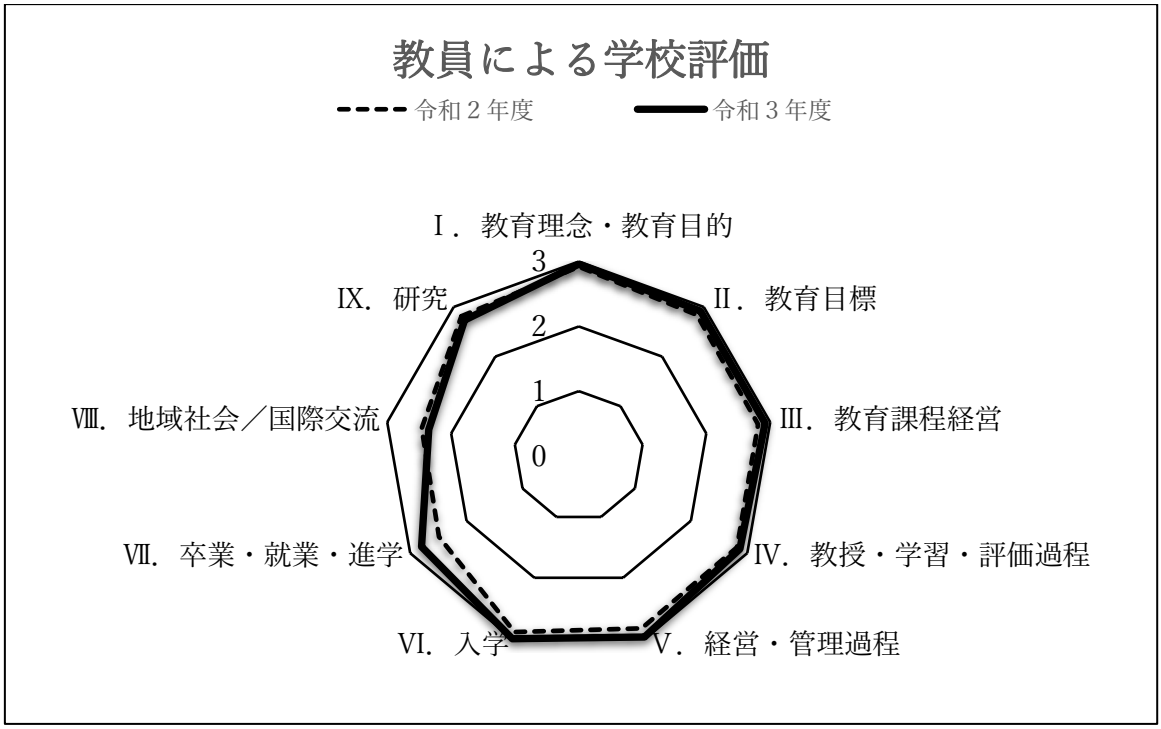
・ボランティア活動は看護学生の特殊性があまり感じられる活動ではなかったため、地域で行われている活動に着目し、看護学生にできるボランティア活動を実施していくことが課題である。

6.総括

今年度は、８項目が「適切」、１項目が「ほぼ適切」、１項目が「普通」の評価であった。特に社会貢献・地域貢献に関しては、学生の地域へのボランティア活動がほとんど実施できていない現状であり「普通」の評価であった。一方、昨年度課題であった教育活動に関しては、新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら工夫を重ねてきたこと、ICT教育環境の充実、実習施設との連携により「適切」という評価へ改善した。今年度の学校関係者評価結果より、以下３点の課題が明確になった。

①災害発生等に伴う学生の防災対策として、防災意識教育および備蓄の準備を図ること。

②学生募集に関して、受験の動向分析および地域への学校PRを図ること。

③学生のボランティア活動の参加方法の工夫により、地域貢献度を高めること。

令和３年度　自己評価結果